

令和3年度学校評価報告書

北海道旭川西高等学校

1 本年度の重点目標

- (1) 授業改善や探究活動等の充実を図ると共に、組織的な指導によって学力を高める。
 (2) 自らの生き方を考え、進路を選択できる力や態度を育む。
 (3) 生徒の主体的な活動の充実を図り、望ましい人間関係を形成できる生徒を育てる。
 (4) 安全で安心できる活動を通して、体力の向上を図る。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育目標 経営方針	保護者アンケートでは、「西高は重点目標に沿った教育活動を行っている」とした回答が84%と高い評価を得た。一方、教職員アンケートでは、業務精選と効率化が27%、働き方改革については67%、指導力向上については33%が不十分とする結果であった。業務の負担軽減を図り、教員の指導力向上につなげていくことにより、学校の教育活動を一層推進していく必要がある。	教育目標・経営方針の「自己評価と取組」、「改善方策」は、ほぼ適切である。 ・個人面談日を午前授業とするなど調整が必要である。
改善方策	(1) 分掌・学年での更なる業務の精選と業務の平準化を図る校内体制を構築する。 (2) 計画的かつ効率的な会議等を通して、情報の共有と協働的な取組を推進する。 (3) 週休日の振替や変形労働時間制等を活用し、時間外在校等時間の縮減を図る。	
学習指導	教職員アンケートでは、主体的で対話的な深い学びの促進が27%、新学習指導要領やBYODへの対応が53%、授業改善については33%が不十分とされ、生徒アンケートでも「自ら学び自ら考える力と学力の向上」に不十分であるとした者が25%いた。授業改善を図り、基礎学力の向上と主体的で対話的な深い学びをさらに推進していく必要がある。	学習指導の「自己評価と取組」、「改善方策」は、ほぼ適切である。
改善方策	(1) BYODに伴いICT活用に係る校内研修や授業研究を通して教員の指導力向上を図り、授業改善を推進する。 (2) 各教科のシラバスの刷新、観点別評価の改善を通して生徒の学習意欲の向上を図る。 (3) 生徒の学習習慣を定着をさせるためにGoogle Classroomの活用について工夫改善を図る。	
進路指導	生徒アンケートでは、進路情報や適切なアドバイス、進学講習等の実施について95%が十分であるとしており、教職員アンケートでも、進路シラバスの活用については80%が十分としていた。キャリアグループと学年教科の連携を見直し、組織的な進路指導を継続していく。	進路指導の「自己評価と取組」、「改善方策」は、ほぼ適切である。
改善方策	(1) 卒業生や地域人材を活用したキャリア教育の充実を継続していく。 (2) 保護者への情報提供を充実させ、家庭と連携した進路指導を継続していく。 (3) キャリアサポートグループを中心に情報提供の継続および調査書等の書類作の効率化を図り、学年との連携の強化を図る。	
生徒指導	教職員アンケートでは、いじめの未然防止やいじめの事故に対する組織的な対応が96%、生徒アンケートでも98%が十分であるとの結果が得られた。また、支援を必要とする生徒への支援委員	生徒指導の「自己評価と取組」、「改善方策」は、ほぼ適切である。 ・部活動指導における顧問と生徒の人間関係の構築が大切である。

	会を中心した組織的な対応についても89%が十分との結果が得られたが、「悩みや困ったことがあったときいつでも先生に相談することができる」について一部の生徒が不十分とする回答も見られ、ライフサポートグループと学年の連携を密にした取組みを継続していく必要がある。	
改善方策	(1) いじめの未然防止に向けた情報共有の継続とSNSに係わる指導の強化を図る。 (2) 支援委員会を中心に特別な配慮を要する生徒について外部専門機関、スタディサポートグループと連携し支援を継続していく。 (3) 本校の「元気チェック」の他、新たな生徒理解調査を実施し生徒理解を深めていく。	
健康安全指導	生徒の健康安全の意識を高める指導、施設管理を通した学校生活環境の改善について90%以上が十分であり、保護者アンケートにおいても健康安全について85%が十分であると高い評価を得た。新型コロナウイルス感染症対策も含めライフサポートグループと学年の連携の下に指導を継続していく。	健康安全指導の「自己評価と取組」、「改善方策」は、ほぼ適切である。 ・冬期間でのセーター、カーディガンなど生徒の制服の見直しを検討していただきたい。 ・メンタルサポートの充実をお願いしたい。
改善方策	(1) 実効性のある避難訓練や防犯訓練を実施し、安全行動に対する生徒の意識と教員の指導力向上を図る。 (2) 公共交通機関の利用や自転車の乗り方についての指導を強化し、交通事故等の未然防止に努める。 (3) 規則正しい生活習慣の励行とともに、生徒自らが健康管理を行う態度を育成する。	
理数教育	教職員アンケートでは、SSH事業について自治体・大学等の外部機関との連携および事業評価の分析と効果について91%が十分としており、保護者アンケートにおいてもSSHの特色を発揮した教育活動について77%が十分であるという評価を得た。探究的な学びによる思考力・表現力・コミュニケーション能力の向上については88%の生徒が十分としており、さらに課題改善を図りながら教員の協働体制による事業の発展を目指す。	理数教育の「自己評価と取組」、「改善方策」は、ほぼ適切である。
改善方策	(1) 学校HP等での積極的な情報発信を継続し、地域・保護者への周知と理解を図る (2) 探究活動支援TAの活用や他校参加の生徒研究発表交流会の充実を図る。 (3) ポートフォリオや課題解決・解決能力テストの活用を通して生徒の資質能力の向上を図る。	
開かれた学校づくり	保護者アンケートでは、教育活動の状況や成果等の発信について77%が十分、PTA活動については十分とした保護者が67%であり、新型コロナウイルス感染症による各行事等の変更や縮小が影響していると考えられる。マネジメントグループを中心に、地域・保護者への情報提供について改善を図る必要がある。	開かれた学校づくりの「自己評価と取組」、「改善方策」は、ほぼ適切である。
改善方策	(1) 学校からの情報を確実に保護者に伝えるために、学校HPの改善や学校配信メールの活用について工夫改善を図る。 (2) PTAとの連携を密にし、地域と連携した教育活動の充実について検討する。 (3) オープンスクールや学校説明会での運営や内容について見直しを図り、本校の教育活動の周知と理解に努めていく。	
公表方法	・学校評議員会、PTAの役員会等での公表及び本校ウェブページでの公開。	